

2025年6月11日

学校法人三幸学園
大宮医療秘書専門学校
校長 増田 泰明 殿

学校関係者評価委員会
委員長 千葉 真一

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 千葉 真一 (ヒューマンリソシア株式会社 マスターズマネージャー)
- ② 坂本 愛寧 (第14期卒業生)
- ③ 立川 直喜 (飛鳥未来きずな高等学校 大宮キャンパス 教務主担当)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月11日 (会場 大宮医療秘書専門学校 301教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書専門学校 自己評価学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 千葉 真一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

前年度は成長実感をもてる生徒の育成・退学率の低減について注力をした。成長実感を持てる育成として、行事の際の教員からのアプローチや、様々な役割に挑戦できるような声かけを行ったこと、そして検定の取得に向けた教科担当の指導もあり、卒業生アンケートの「本校で成長できた」の項目が分野平均を上回る結果となった。また、就職率も過去最大の結果を出すことができた。退学率の低減については、教科担当との連携や、のんびりスペースという教室以外の休憩場所を設置したこと、先輩スタッフが後輩と関わり学校生活のサポートをしたこともあり退学率を大きく下げることができた。今年度については、通信制高校出身者も増加している昨今ではあるため、勉強面でのサポートとして週に一度のスタディサポートを、登校とオンラインのハイフレックス授業で展開し、登校面の不安解消をしつつ、より退学率低減ができるよう学校運営を行なっていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

・入学して成長実感があるところは、人前に出て自信をもって話しができるようになったこと。オープンキャンパスの在校生スタッフ、入学式のナビゲーター、三幸フェスティバルのパフォーマンス長など、先生の後押しもあり様々な経験ができたことが、ありがたい。(坂本委員)

・在学中には、検定取得など勉強に尽力してもらいたいが、現場で求められている人間力を高められるよう、様々な経験をしてほしいと思う。(千葉委員)

・特に通信制高校出身の学生へは高校時代の教員と、同じような雰囲気や専門学校の教員の方々にも接してほしいと思う。また、進学後の状況含め共有頂くと、安心して送り出すことができると感じる。(立川委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・生徒に向けた教育理念や目指すべき職業人像については、入学時に実施したスタートアッププログラム(入学プログラム)・進級後に行う初回登校日で担任より伝えるものの、それ以降伝える機会を作っていないため、浸透していると言い切れない。
- ・保護者に向けては、対面で入学前に保護者説明会を実施したものの、参加者が入学生徒の半数程度だったため、出席率に課題が残る。

② 今後の改善方策

- ・生徒に向けては、各授業において目指すべき職業人像について触れる機会を作ることで浸透させる。
- ・保護者への浸透方法としては、保護者向け連絡ツール「スクリレ」を導入し、アプリ上で学校からの案内を見られるようにシタイルな情報共有をすることで上記内容を保護者へも浸透させる。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念・職業人像については、なんとなく記憶に残っている程度である。理念の浸透という意味では、例えば教室に掲示するなど視覚的に捉えられるようであればより浸透するような気がする。(坂本委員・千葉委員)
- ・保護者連携については、保護者会等も実施しているが、欠席者に関してはアプリ上で情報発信をこまめにするよう心掛けている。ただ、高校側も課題に感じているのは発信した内容の閲覧率が低い点である。(立川委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・今後増加する予定のデジタルテキストに向けた対応がまだ検討できていない。

② 今後の改善方策

・デジタルテキストを活用し運営している姉妹校へ情報提供いただき、教員側がデジタルに対応できる環境を整えておく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・教科書はデジタルではなく通常の冊子ではあるが、タブレットを全員持っているため、配布プリントについてはデータを送るようにしている。今は1年生から3年生まで全員タブレットを持っているため、専門学校に入ってから配布プリントや課題についてはデータで送ることをお勧めする。（立川委員）

・テキストがデジタルになるとやりづらさはあると思うが、配布プリントがデータになるは復習するときに役立つので良いと思う（坂本委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・研修が「現状の高校生の学力レベルを知る」という内容だったため、教職員全体のレベル向上にむけた研修の実施ができていない。

② 今後の改善方策

・卒業生連携を強めていることもあり、教員向けの研修会の中で卒業生による座談会、もしくはパネルディスカッションを行い最新の現場情報を聞くことや、自身が送り出した卒業生の姿を見てモチベーションアップするような取り組みを行う。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場で働く中で感じることは、より実践的な内容をもっと学びたかったということ。医療用語や事務職ならではの緊急対応やクレーム対応など、1年次に学んではいたが、2年次にもよりリアルな内容を学べると今の現場で困ること

がないように感じる。(坂本委員)

・現場で実際にやったことがあるのは、患者様目線で医療事務員が使っている言葉をわかりやすい言葉に変換すると何になるかという勉強会。実際に現場で働いているとその言葉が当たり前になるため、患者様目線で考えるとというのは非常に大事だと思う。在学中の実習時に、実習先で聞いた言葉を在校生から集めて、授業内でわかりやすい言葉にまとめる工夫をしてみると良いと思う。(千葉委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・新たに開講された美容医療コースに特化した就職先の開拓ができていない。

② 今後の改善方策

・美容皮膚科や美容クリニックへの訪問を増やし、本校向けの求人がいただけるような働きかけを行う。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・課題とは若干異なるが、就職サポートとして一番為になったのは、医療機関の方が来校くださる模擬面接会だった。1年生でも2年生でも1回ずつ経験でき、就職活動の時に活きたと感じた。エリア担当の先生が職員室に不在なことが多かったこともあり、タイムリーな相談ができなかった時があったが、クラスルーム(生徒⇄教員間でやり取りができるWEBツール)で連絡を取るより直接話したいというクラスメイトが多かった印象がある。(坂本委員)

・高校で退学率低減に向けて取り組んでいることは、とにかく1回のコミュニケーションを大切にすること。専門学校と違い毎日顔を合わせることができないため、こまめな連絡・登校時のコミュニケーションを怠ってしまうと退学につながることもあるため、日頃の関わりを大切にしている。(立川委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・過去に比べて課外活動の数は増えているものの、まだ通常授業外で行える活動が不足している。

② 今後の改善方策

・2024年度に開拓した活動先は継続して2025年度も参加者を募集し、地区で進めている地域連携プロジェクトチームから依頼のある活動に対しては積極的に、本校ならではの案を出し参加できるようにする。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・病院側としてはボランティアの学生の存在は必要と感じている。病棟でのレクリエーション補助や、得意なことがあればそれを披露する機会を病院側に営業し、接点を作ると更にボランティアなどは増えるのではないかと。前述したが、学校の勉強以外で頑張ったことは就職活動でも話せ、定型文ではない自身の言葉で話せることのため、多々参加できるようにしてほしい。（千葉委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・より実践的な教育を行いたい、医学実習室の設備が不十分である。

② 今後の改善方策

・2025年度スタート時には新たに受付実習室という、より病院の受付に近い施設を設置したためより実践的な内容を授業で行う。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・医療系分野を希望する方が減少している。

② 今後の改善方策

- ・通信制高校出身者の増加に伴うフォロー体制に注力をしていく。
- ・再進学者が魅力に感じる教育内容や環境等の打ち出しを強化していく。
- ・留学生向け学科の募集・入学がスタートしているため、対応方法を検討していく。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし。

② 今後の改善方策

・引き続き順守をしていく。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・業界のみに限定してしまうと、課外活動数があまり多くないのが課題である。

② 今後の改善方策

・業界内の活動のみならず、地域に愛される学校づくりを目指し、頂いたボランティア活動へは積極的に参加できるように準備しておく。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・留学生のサポート体制が確立しておらず、試行錯誤している。

② 今後の改善方策

・同法人の国際事業部や日本語学校と連携を図りより良い運営を目指していく。

③ 特記事項

・特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現在病院にも外国籍の方が多く来院されている。働いている病院にも英語・中国語・韓国語を話せる専門の方がいるため、もし言葉が通じず対応が難しい場合はその方をお願いをしている状況。(坂本委員)

・病院でも外国籍の方が多く来院されるため、在学中に留学生の方と医療系在校生の交流ができるような機会があると、お互いにメリットがあると思う。留学生は日本語能力の向上・日本人にとっても外国籍の方との関わり方を身に着けることができると思う。(千葉委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・学校の勉強が社会に出た時の土台になっていくため、学生のうちに伝えられることはたくさん伝えてほしい。実務経験のある人がリアルな現場の話をしてくれることが専門学校の強みでもあるので、ぜひそう言った機会を大切に、そして在学中に現場に出る機会がより増えることを願っている。(千葉委員)
- ・今回初めてこのような会に参加し、専門学校のリアルな雰囲気を感じることができた。卒業生を送り出す意味でも高校側もより専門学校と連携が取れるように今後も関りをもっていきたい。(立川委員)
- ・在学中に様々な経験をさせていただき、大きく成長できたと思っている。今の在校生もきっと「やりたいけど勇気が出ない！」と思っている人がいると思うため、ぜひ先生方が背中を押してあげ、チャンスをつかめるようにしてあげてほしいと願っている。(坂本委員)